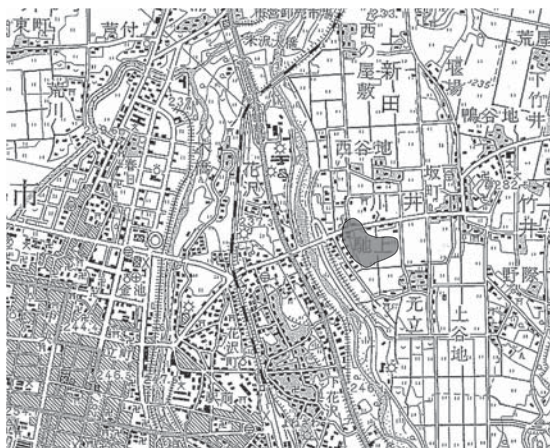


はせがみ 馳上遺跡

遺跡番号 米沢市遺跡番号 353-354
調査回数 第3次
所在地 米沢市大字川井字元立
北緯・東経 北緯 37 度 55 分 05 秒・東経 140 度 08 分 20 秒
調査委託者 国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
起因事業 東北中央自動車道（米沢～米沢北）改築事業
調査面積 8,800㎡
現地調査 平成22年5月14日～11月30日
調査担当者 須賀井新人（現場責任者）・菊池玄輝・五十嵐萌・岩崎恒平・山木巧
調査協力 東日本高速道路株式会社東北支社山形工事事務所・米沢市教育委員会・置賜教育事務所
遺跡種別 集落跡
時代 古墳時代・奈良時代・平安時代・中世
遺構 竪穴住居跡・掘立柱建物跡・河川跡・溝跡・土坑・柱穴・炉跡
遺物 土師器・須恵器・黒色土器（文化財認定箱数：42箱）



遺跡位置図（1：50,000）

調査の概要

馳上遺跡は米沢市役所の東方約1kmに位置し、古墳時代と奈良・平安時代の集落跡と推測される遺跡である。西側を流れる羽黒川によって形成された後背湿地上に立地し、現在の地目は水田となっている。馳上遺跡では、平成12年度に県道改良工事に係る大規模な発掘調査（第1次調査）が行われた。また昨年度（平成21年度）には、高速道路建設に伴う第2次の発掘調査を、遺跡範囲の西域に当たる11,750㎡を対象として実施した。

今回の調査（第3次調査）は、第2次調査に継続する

もので、遺跡範囲西側の南北両端域に係る約8,800㎡を対象とした。

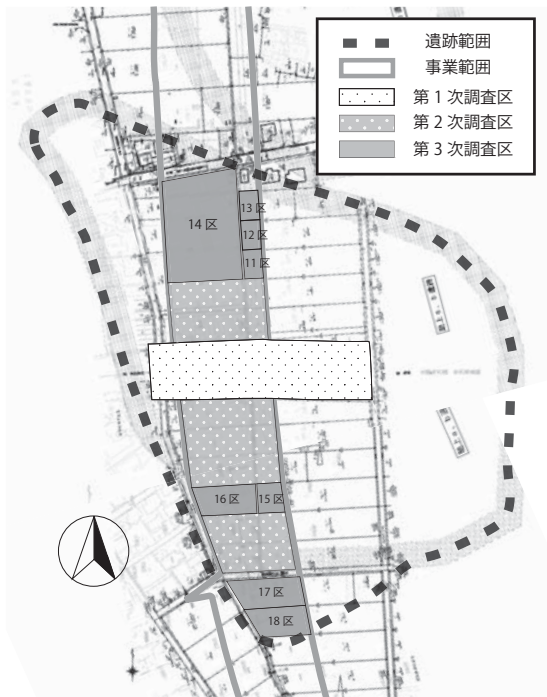
調査区は既設・仮設の排水路により大小8区画（11～18区）に分割され、北側の14区は工事用道路との関連から、東西に二分して調査を行なった。調査区内における地盤の高さはほぼ一定ながら、遺構や遺物の分布は14区と16区に多く認められる。

遺構

今回の調査で見つかった遺構には、住まいや倉庫であった竪穴住居跡や掘立柱建物跡、廃棄物用の穴と考えられる大小の土坑、区画や排水に使われた溝跡などがある。また、羽黒川の支流であったと思われる河川跡が複数見つかると、住居跡などの遺構はこれら河川間の比較的安定した場所に築かれている。

竪穴住居跡は30棟あまり確認され、一定の区域に重複したものも存在する状況から、集落の変遷過程を探ることができる。大きさは方形の一辺が3～5mの規模のものが一般的だが、14区では一辺の長さが9mにも及ぶ大型の住居跡が1棟確認された。

掘立柱建物跡は、規模の大きな柱穴からなる3棟が見つかった。これらは東西二間×南北三間の配列で、柱間の距離は九尺（約2.7m）を、また柱穴掘り方は径・



調査区概要図 (1 : 5,000)

深さとも約 1 m の大きさを測るものである。

幅が 12 ~ 15 m 程の河川跡は、大きく蛇行しながら遺跡内を南から北へ流れている。川底までは約 1.5 m の深さがあり、土層は砂と粘土が交互に堆積していた。粘土層は腐食により黒ずんでおり、この時期には水の流が緩やかな湿地になっていたと思われる。遺物はこの粘土層から多く出土し、特に蛇行する部分からは土器の完成品も見つかっている。

遺物

遺物は奈良・平安時代の土師器・須恵器・黒色土器等が、主に河川跡や住居跡から多く出土している。遺物の総数は整理箱にして 42 箱である。

土器はほとんどが破片だが、復元して完形になるものもあり、煮炊き用の土師器の甕、貯蔵用の須恵器の甕・壺、食器である須恵器や黒色土器の坏などが認められる。坏には、底部が大きく器高が低い形状の奈良時代のものと、底部が比較的小さく器高が増す平安時代のものがあり、その形態の違いからおよそ一世紀の時期幅があるものと考えられる。河川跡出土の坏類の中には、底部に墨書されたものが認められた。遺構内における遺物の分布傾向は、微高地状を呈した遺跡北部検出の竪穴住居跡群に集中している。



14 区 ST5665 竪穴住居跡 調査状況



16 区全景 完掘状況

まとめ

馳上遺跡は、羽黒川右岸の後背湿地上に営まれた奈良・平安時代を中心とした集落跡である。第 1 次・第 2 次調査の内容も加えて、これまでの調査成果をまとめると以下ようになる。

今回発見された遺構は、奈良・平安時代の竪穴住居跡と掘立柱建物跡や土抗、中世の溝跡である。調査区における遺構の分布状況から、集落跡の中心部は遺跡範囲の西側であることが分かった。出土した遺物は、奈良・平安時代の土器が主体で、その多くが住居跡や河川跡から出土している。

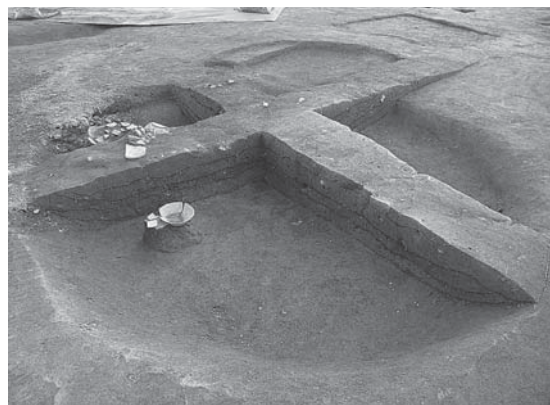
河川は流路を幾度か変えながら北流するが、集落もその変化に応じて中心を移したことが窺われる。また、河川沿いに検出された大型の建物跡は当時の倉庫と思われる。舟運を利用した物資の集積場所であった可能性がある。過年度の調査では、甕や木簡、水瓶といった郡や郷の役所と関連した遺物も出土しており、一般的な農耕集落とは異なる様相が窺われる。



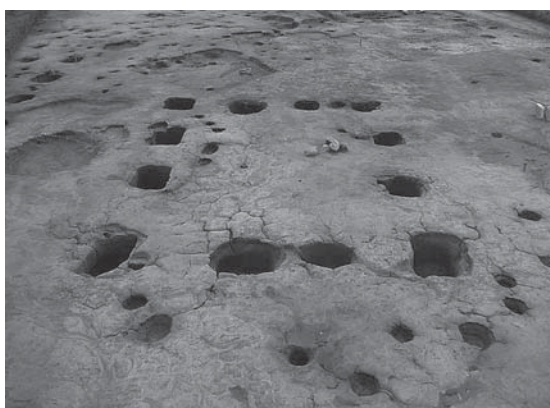
第 14 区 遺構配置図



14区 ST5665 竪穴住居跡 完掘状況



14区 SK5280 土坑 土層断面



14区 SB6401 掘立柱建物跡 完掘状況



14区 ST6223 竪穴住居跡 炭化材出土状況



14区 ST5665 カマド周辺 遺物出土状況



12区 SP5373 柱穴 土層断面



12区 SK5363 土坑 須恵器壺出土状況



14区 SK5821 土坑 遺物出土状況



16区 SK6190 土坑 土師器甕出土状況